



第66号

平成11年6月21日
発行所
茨城県東茨城郡
内原町鯉淵5965
鯉淵学園同窓会
☎319-0323 TEL029-259-2811
振替口座 宇都宮3-1632番
印刷所
旬双葉印刷

鯉淵四年制初の卒業生 学園を巣立つ

農業経営科学科七二名 生活栄養科学科二〇名が仲間入り

平成十一年度新入生一〇二名 新農業人創造を目指して集結

平成十年度卒業式が挙行された平成十一年三月十七日(水)は、平成七年四月四年制農業・生活専門学校《鯉淵学園》として新生、発展移行した記念の年に、その一回生として入学した若者が艱難辛苦、四年間の学業を無事に終えて、晴れて、四年制第一回、通算五二期生として実社会に船出した記念すべき日ともなりました。

入学時は、農業経営科学科九六名、生活栄養科学科二三名と報告されて「とても元気づきる」と当惑ぎみの上級生もいたくらいでした。農業経営科学科二四名の脱落はいささか淋しい感じではありますが、四年間で体得した建学の理念と鯉淵魂を基にこれからの活躍を期待するばかりです。

卒業生名簿は、会員名簿【第十二版】準会員三年生欄に登載されているので参照願いますと同時に、都道府県支部活動への参画が円滑に成し遂げられるように気配りの必要があります。

同窓会本部では、二月八日(月)新会員同窓交流会を開催し、卒業予定学生を対象に「支部活動への積極的参画等」を主題に二時間の話し合いを持ったことから、同窓会に対する予備知識は十分と評価し、以後、地元支部における歓待指導に期待するところです。

交流会出席者は、会長、吉川副会長、北村常任委員、根本同、山本同、工藤同、満永協合理事、学園長、事務局長の計九名です。

四月七日(水)の平成十一年度入学式は、桜花爛漫の日和に新入生を上回る父兄来賓の祝福の下に行われ、農業経営科学科六二名、生活栄養科学科三七名及び農業経営科学科三年編入三名が、それぞれの胸に大志を抱き、自然とともに生きる二十一世紀

農業人の新しいライフスタイルの創造を目指して学生生活の第一歩を踏み出した。他に、青年海外協力事業団からの委託生三名が入学、八月の海外派遣に備えて、直ちに、研修を開始した。

学生進路活動協力委員活動発進・十二支部が委員候補者推薦

前回「会報第六十五号」をもって報告した学生進路活動協力委員設置概要に基づいて、会長から都道府県支部長に対して委員候補者の推薦を依頼した結果、次の十二支部長から別記「名簿」の通り回答があり、学園長に内申しました。

未推薦支部については、本事業推進上均衡を図る必要があることから、支部長代行で対応していただき、委員決定次第引き継ぐ方針でお願いします。

【別記一】学生進路活動協力委員候補者名簿

支部名	農業経営科学科担当	生活栄養科学科担当
群馬県	松井孝司	松井孝司
埼玉県	永岡和明	斉藤ともえ
東京都	住吉達男	
神奈川県	鈴木昭司	笹島童生
新潟県	重野徳夫	田辺扶裕子
岐阜県	高津政巨	野原静子
静岡県		新関八千代
京都府	岡本嘉明	竹村敬子
鳥取県	佐藤徳太郎	谷岡妙子
山口県	田中博守	岡本正
愛媛県	加藤尚	西谷邦子
熊本県	東善明	田上輝昭
	19期	21期
	25期	29期
	18期	9期
	23期	22期
	21期	16期
		23期
	12期	19期
	23期	13期
	17期	47期
	22期	26期
	24期	24期

名簿代金督促

平成十年五月二十五日付代金後納措置
によって名簿を受け取った方で、未だ、
代金を納入されていない方は、次の方々
です。

所属支部、氏名、卒期順。至急、ご送
金ください。

- 【北海道】 奥村 芳一^② 藤生 栄一^③
- 狩野 康弘^④ 下葉 律子^⑤ 立石 秀行^⑥
- 結城 律子^⑦ 岡部 力雄^⑧ 東京 都^⑨
- 小田 正美^⑩ 新瀉 平山 力^⑪
- 【岩手県】 平田 正^⑫ 齋藤 和之^⑬
- 藤原 安雄^⑭ 鈴木 恒雄^⑮
- 兼平 雅実^⑯ 福井 弘部 義博^⑰
- 【宮城県】 大内貴恵子^⑱ 山梨 中込 直^⑲
- 【秋田県】 門脇 保^⑳ 長野 塩原 徳三^㉑
- 河野 高^㉒ 青木 敬^㉓
- 【福島県】 丹内 祥一^㉔ 藤木 正彦^㉕
- 猪俣 修^㉖ 佐田 久^㉗
- 【茨城県】 原 慎一^㉘ 岐草 須川 宏^㉙
- 【静岡県】 菊池 貞利^㉚ 奥山 康光^㉛
- 羽深 宗雄^㉜ 京都府 村上 勝也^㉝
- 菅谷 求^㉞ 兵庫 関口 恵士^㉟
- 大久保正明^㊱

【福岡県】 堀口 浩^⑳

【熊本県】 上井 千一^㉑ 鹿見島 松倉 俊一^㉒

瓜生 俊一^㉓ 後藤 昭博^㉔ 大城 春美^㉕

【宮城県】 黒木 正昭^㉖ 小濱 勝憲^㉗

甲斐タマ子^㉘ 上江洲 毅^㉙

松本カズ子^㉚ 以上四七名

平成十一年度 鯉洲学園人事異動

依願退職	教 授	三上 正則
教 授	清水 幹夫	
嘱託教授	砂田 義雄	
定年退職	教 授	小沼 寛
名譽教授称号授与	砂田 義雄	
採用	教 授	山下 達雄
嘱託教授	小沼 寛	
講 師	野口 貴彦	
助 手	浅津 竜子	
技 師	鈴木 文子	
技師補	伊藤 義啓	
技師補	笠井 厳	
主事補	豊崎 桂子	
主事補	大津 芳江	

常任委員・監事合同会議報告

第二十四回大会開催日程等審議 従来方針で合意
平成十一年度会費収入 予算計上額達成見込む

平成十一年四月二十四日(土)同窓会館において別記「会議出席者名簿」委員出席の下に開かれた常任委員並びに監事合同会議は、報告事項質疑承認の後、第二十四回大会日程並びに会則見直しを中心に審議が進められた。

報告事項では、支部総会等開催状況、役員及び支部長の異動、学生進路活動協力委員候補者内申並びに会費収入状況等が別掲のとおり承認され、特に会費収入は、予算目標達成間近かの成績であることから、次の計画が話題になるほどの雰囲気の下に議事が進行した。

主なる合意事項は、次のとおりである。

第二十四回大会開催日程

十一月三日(文化の日)で合意

従来実施してきた文化の日は、各地域での行事が多く、出席が困難であるとの意見・評判からの検討であったが、結局従来方針で決着した。

また、大会に出席する支部長に対する旅費支給問題は、財政上困難視されてきたが、要望が多いことから、支部長会議を同時に開催することで検討した結果、会費の大幅増収は期待できず、積立金取り崩しでの支給は時期尚早であると判断された。

従って、第二十四回大会は、従来どおりの方針で招集することになった。

同窓会会則の見直し

平成元年十一月十八日改正以来

会員の増加と実態に適合した見直しを行い、第二十四回大会に提案する方針を固めた。

次回役員会を十月上旬とし、最終案をまとめる。

特に、代議員定数の削減を行い、新しく取り組む財政計画に盛り込んで代議員の招集を容易にし、大会運営の正常化を促進する方針である。

現行規定による代議員定数は、各支部一名に、会員数〇名を越す支部は超過〇〇名毎に一名加算することになっており、四〇〇名を越す大会構成員となります。

以上、財政並びに収容施設の絡みで代議員を招集できなかった訳です。この点を整理して現実化を図る考えです。

終身会費名簿洩れ者確認

追加登録承認

平成六・七年度終身会費納入者名簿作成時から申告を受けていた、「別掲」二者の名簿登録洩れに関して、調査結果に基づき納入事実を確認し、ここに間違いをお詫びして追加登録を承認する。

平成十年十一月一日～十年四月三十日
期会費納入者名簿【報告】終身会費欄
末尾参照。

会員名簿【第十一版】

一一〇冊

廃棄処分

会員名簿【第十一版】は、平成四年二月発行物で、会員名簿特別会計在庫品として管理している資産であるが、平成九年七月、新しい名簿【第十二版】を作成販売したことによって使用目的が消滅し、不要になったものである。

平成十年・十一年度会費納入のお願い

財政健全化・目標納入率四十％達成を目指してひと奮発

未納会員のご理解とご協力に期待

同窓会運営の基盤である会費収入は、別掲「都道府県別、卒業期別会費納入者数集計表」に示す通り三四・九％の納入率となり、平成八・九年度同期に比較して一・九％の伸長で目標とする合計納入率四〇％には及びませんが、十・十一年度会費収入予算六〇〇万円に対し五九・八万円の実績で、残り七・二万円、二四名会員のご支援により一次目標達成の見込みであります。

三度目の挑戦である会費収入予算完納と、今後、同窓会の正常化運営に必要とする財源確保に、更なるご理解とご協力をお願い申し上げます。

特に、会費未納の方は、至急、ご送金くださるようお願い申し上げます。払込取扱票（郵便振替票）紛失の場合は、事務局にご請求ください。

【別記二】 常任委員・監事合同会議 出席者名簿

（役職・氏名・所属・卒期の順）		常任委員	監事
会長	福丸 博房 埼玉⑨	大竹 勝次 栃木⑭	上藤 徹郎 学園⑩
副会長	高橋 隆二 茨城⑨	住吉 達男 東京⑮	秋葉 勝矢 学園⑩
副会長兼 常任委員長	吉川 昭雄 茨城⑪	（東京都支部長） 北村 康祐 神奈川②	白上 忠男 東京⑨
常任委員	倉重 一夫 茨城⑪	（神奈川支部長） 本宮 好美 茨城⑫	本宮 好美 茨城⑫
	（茨城県支部長） 稲川 正夫 茨城⑬	岩持 文彦 学園⑦	満水 正昭 千葉④
	根本 保夫 茨城⑭	（以上 十五名）	

支部・同期の動向

長野県支部世紀末大会三十二年振り 地域担当四副支部長配置
新春講話会（東京）と熊本不知火会五〇周年記念 支部行事数多

会員三〇〇名間近い長野県支部は、三十二年振りと言われる世紀末大同窓会を開催、新支部長を選任、新たに東信、南信、中信及び北信担当の副支部長の他に、十八人の幹事団を組織して体制強化を図った。今後の活躍が期待される。

また、不知火会五〇周年記念大会の熊本県支部では、不知火出身叙勲受賞者に記念品を贈呈して祝福し、県議選に初挑戦する会員の決意表明などがあって大会は最高の盛り上がりとなった。選挙は、善戦むなく次点の結果ではありましたが、これに甘んずることなく今後の精進をご期待申し上げます。

なお、今回報告の支部総会に関連した超人作寄稿文は、後に整理して掲載する予定でありますのでご了承ください。投稿記事は、原文通りを原則としましたが、多少、文字の入れ換え箇所がありますのでお許しください。

支部並びに同期会の開催状況等次の通りです。会議概要として、◆開催年月日 ◆会場又は開催地 ◆代表者 ◆出席者又は人数 ◆主なる会議内容の順に掲載する。○数字は卒期、括弧は通信課程卒期。

長野県支部総会

◆平成十一年一月二十三日(土)

午後四時

◆長野市北石堂町

◆県農協ビル三階「しなの木」

◎二六―三六―三六三三

◆支部長 小林 道夫④

◆出席者 四五名

◆会議内容 支部運営協議、役員改選及び懇親会。

◆新役員紹介

(役職、氏名、卒期順)

顧問 小林 道夫④

顧問 関 正治④

支部長 落合壽美男⑦

副支部長 小池定子⑮ 東信担当

〃 小平 伸⑧ 南信 〃

〃 太田光保⑭ 中信 〃

〃 上沢徳雄⑨ 北信 〃

◆派遣員 岩持文彦⑦(事務局長)

◆出席者紹介

(氏名、卒期、◎は幹事。写真顔)

名照合は読者責任)

関 正治④ ◎青木 敏②

落合壽美男⑦ ◎下島 公平①

小平 伸⑧ ◎平松 昭二②

上沢 徳雄⑨ 薄井 宝永②

樋屋 喜吉⑨ 長淵 充章②

◎大日方悦雄⑩ ◎雨宮 勇②

長崎 光悦⑩ ◎丸山 陽子③

桐生 純治⑪ ◎牛山 喜文③

若林 久登⑬ 田中美和子③

◎宮沢 昭男⑭ 河西 恒夫④

◎市川 秀人⑭ 河西留美子④

◎林 弘旦⑭ 松島 正人④



◎藤原 文夫④
◎矢嶋 國男④
三井 静明④
◎豊田 実④
小出沢清人⑤
小池 義泉⑤
宮嶋 紀義⑤
飯塚ひろ子⑦
◎野村 和寛⑦
野村 順子⑦

◎南雲 成一⑦
中沢 昌久⑨ 矢崎 深志⑩
伊東 泰幸⑨ 小林 克実⑦
伊藤 俊男⑨ 日向 明美⑨
百瀬 澄之⑩ ◎若林 孝⑤
丸山 安則⑦ ◎細井千重子⑨
吉沢 栄二⑦ ◎奥原 公平⑤
伊沢 雅夫⑦ ◎竹前 久子⑨

熊本県支部総会

◆不知火会五〇周年記念大会

◆平成十一年一月三十日(土)

三十一日(日)

◆玉名市玉名温泉「白鷺荘別館」

◆支部長 森川 紀一⑩

◆出席者 二三名(記念写真紹介)

◆会議内容 支部運営協議、役員改選、

五〇周年記念事業、叙勲受

賞者祝福記念品贈呈、県議

選出馬表明者激励及び懇親

会。

○不知火出身叙勲受賞者

村田 芳郎③氏

平成十年春 勲四等・旭日小綬章

福岡県支部長

○熊本県議会議員選出馬

決意表明者 鳥居憲太郎②氏

事務局 合志 文夫② 新任

馬原 清隆②

◆派遣員 福丸 博房⑨(同窓会長)



◆記念写真
【写真説明】
前列左から 吉田 喜幸⑩ 鹿江 琢史③
坂田 秀雄③ 早上 三男④
福丸 博房⑨ 西川カヅコ⑩
村田 芳郎③ 宮脇 淳①夫人
中列左から 宮崎 大平⑨ 田端 義雄⑨
森川 紀一⑩ 井 晴生⑨
坂野 裕文⑤ 高橋 直子⑨
井 芳美⑦ 田上 輝昭①
後列左から 松本 功⑨ 吉丸 民雄⑨
鳥居憲太郎② 中村 真輔⑩
東 善明⑩ 原田 健一⑩
本田 和稔③ 白石 誠一①

東京都支部総会

十一年新春講話と新年会

◆平成十一年一月三十日(土)

午後三時～六時

◆東京都新宿区市ヶ谷船河原町一一番地
家の光飯田橋レインボービル
A会議室及びレストラン「耕」

◆支部長 住吉 達男¹⁷

◆会議内容 支部運営協議、講話会及び懇親会。

◆講話内容

演題「最近の食生活と生活栄養教育について」

講師 鯉淵学園生活栄養科字科 助教 入江三弥子先生

第一回東海四県支部総会

三重と岐阜と愛知と静岡で
茨城と長野から飛び入り

◆平成十一年二月二十日(土)

二十一日

◆静岡グランドホテル「中嶋屋」
幹事 静岡県支部長 平石 五雄¹⁴

◆出席者 二三名
【三重県支部】

花井巳代治⁵ 山中 種郎⁷

北川 勝己²⁴

【岐阜県支部】
島本 早苗² 島 清重¹⁴

【愛知県支部】
小川 末吉³ 宇田 義信²⁰
竹本 トモ²⁴ 長坂 幸治²⁸



【写真説明】

前列左より 小川³ 加藤³ 大石³ 島本² 花井⁵ 今村⁴ 栗林¹⁴
後列左より 割貝²⁴ 竹本²⁴ 島¹⁴ 田代²⁴ 平石¹⁴ 中川²⁴ 梶浦(二年生在学)
長坂²⁸ 宇田²⁰ 高坂¹⁴ 新関²³ 山中⁷ 北川²³ 椎名¹⁴
大多和¹⁵ 高橋²¹

第十五回三期会開催報告

三五名南紀白浜に集う

私達三期会は、昨年中国地区のお世話により岡山県で第一四回集会在開催され、その席上、次回は近畿地区が受け持つ開催することとなりました。これまでも和歌山の地で開催してはと声も寄せられていたのですが、何分人のお世話をすることなどとても叶わずにご辞退させていただくばかりでしたが、農高卒業後五〇年、三期会発足十五回、会員の齢も七〇歳の古稀を迎えたこの記念すべき年に、会員の皆さんをお迎えできる光栄をかみしめながら、世話人一同準備させていただきました。

近畿地区には名所旧跡多々ある中で、和歌山での声を参考に、やや交通が不便ではありますが温暖で観光の地として良く知られる白浜温泉郷を選定し、会員各位にご連絡をさせていただいた結果、三三名の参加申込みでしたが、西日本を直撃した台風十号のために三三名が欠席となり、三五名の参加の下に平成十年十月二十八日、二十九日白浜温泉「ホテルむさし」において第十五回三期会を開催することができました。

ご連絡を差上げた先生方には、それぞれのご都合によってご参加いただくことができませんでした。ご連絡を差上げた先生方には、一年ぶりに出会う者も何年ぶりに出会う者も、講習所卒業後半世紀、それぞれの道を切り開きながら過ごしてきた苦難の途を振り返り語り合う参加者の顔は、学生時代そのものでした。

昨年の会合後亡くなられた二名の方々と、早々に鬼籍入りした二七名の友のご冥福を祈って黙祷を捧げ、世話人代表挨拶に続きお互いの健康と三期会の発展を祈念しての乾杯、参加者一人ひとりからの自己宣伝を兼ねた近況報告へと進行した。未だに現役として頑張っているもの、家庭で自適の生活をしているもの、地域社会のお役になればと頑張っているもの、それぞれ健康に気を配り過ごしている現状が語られ、子供さんやお孫さんの話など好々爺ぶりを発揮するなど和やかな会合となりました。

宴会終了後も各部屋で、学生時代の思い出や、それぞれの人生経験を夜更けまで語り合い賑やかな夜を過ごしました。

私達の三期会は引き続き開催することになり、第十六回は、講習所卒業後学校を訪れる機会が少なかったこともあり、学校訪問をかねて茨城県でお世話願うことを確認して、次回再び元気に会えることを楽しみに散会しました。

文責 第十五回三期会世話人

【記念写真】



五期生会第一〇回集会

山口県に集う！

平成十一年三月二日(火)～三日(水)
山口県萩市菊ヶ浜「千春楽」

春の訪れが近づいた三月のはじめに、萩市を中心として、阿川、荒木、本田の地元幹事さんの絶大な世話になって盛大なる五期生会が開かれました。

同伴者一名を含め、二十四人の会員が各地より新幹線小郡駅前に二日の午後一時に集合し、「日の丸まつり」の観光バスに乗車し、名ガイド友廣さんの案内にて、秋芳洞から野焼きのすんだばかりのカルスト特有の台地秋吉台に登り雄大な景観に接し、台地の中を縫って萩に向う途中吉田松陰先生の記念館を見学したり、萩城址を尋ねてから千春楽に到着しました。

代表幹事のあいさつ、鯉淵学園の近況報告、物故者の冥福を祈ったあと、宴会となり、美妓の酌、相互に酒を汲み交し五十年前の話や、二年ぶりの再会など二分間の指名時間も足りない近況や家族の様子、好意でいただいた美酒に酔いながら、美果に舌鼓を打ち、郷土民謡や高農節なども出て、宴は盛り上がり時間のたつのも忘れて賑やかに騒いだが、最後に寮歌を円陣を組んで歌い、青春の気分になり、各々の部屋に戻ってからも話の尽きない一夜を送りました。

三日は宿を八時半に出発し、夏みかん

の沢山ある町中を、史跡をめぐる、東光寺の総門、三門から

毛利氏の廟所や殉難烈士の墓所、更に松陰神社を参拝して松下村塾見学、歩をのばし白壁の続く武家屋敷の古い町並で、桂小五郎(木戸孝允)旧宅などの江戸屋横町から菊屋横町で豪商菊屋住宅から高杉晋作誕生の地を見てしばし幕末の乱世に

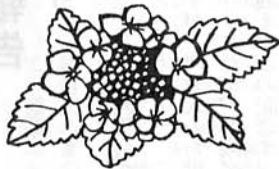
光る維新の地である萩市から山口市へ。県庁前から大内氏の造った瑠璃光寺の国宝五重の塔を見学し、二時半すぎ再会の地、小郡駅に到着し解散。

列車と一部は空港から、楽しい思い出を胸に、次期は長野県での再会を約束しながらそれぞれの家庭に向って行きました。
長野県 峯村 幸徳



【写真説明】

前列左側から 阪衛克己、植田晴男、黒石勇蔵、水野嘉孝、阿川宗一郎、森井泉範、熊谷俊、砂田義雄
中列左側から 黒石夫人、峯村幸徳、張替誠一郎、杉本文午、黒田邦雄、若林孝、土肥洋一、加藤信二、荒木義晃
後列左側から 本田郁二、横田茂満佐、小川昭伍、元木重利、花井巳代治、川上忠、楠原権一、野口良男



第十一期の集い

◆平成十二年二月二十日(土)

〽二十一日(日) 午後三時

◆京都府北区衣笠北大神森町二一

「京都バスカル」

☎〇七五-四六二-七七四六

◆出席者 五二名(記念写真紹介)



【写真説明】

前列左より 野頭夫人 鹿又ワカ 野口美千代 加藤定子 公庄達一 吉川昭雄(同窓会副会長)
 三次えい子 篠原久子 及川徳江 島村多恵
 二列左より 吉谷富美子 公庄夫人 野原小石 枝並春男 盛山和夫 小島好文 志賀陸男
 倉重一夫 矢吹正美
 三列左より 野原夫人 矢吹夫人 村田夫人 駒崎稔 宮地勉 竹内敬俊 加茂孝夫 及川文雄
 鈴木昭司 佐藤一春 阿部夫人
 四列左より 大都夫人 倉重夫人 河合賢吉 加瀬岑生 豊田治 藤村純一郎 大都博海 佐藤昭八
 神田雄太郎 阿部剛
 後列左より 佐藤一春夫人 加瀬夫人 河合夫人 高橋敏夫 桐生純治 桐生夫人 小野田正
 岸本久一郎 野頭孝三 波多野勲

祝受賞

二月二十六日
 於三重県ジャパンフラワーフェスティバルセンター

岐阜県支部 三四期生 間宮 敏昭氏

農林水産大臣賞

第八回花づくり共励会「花き技術・経営コンクール」
 個人の部・花普及センター主催

《満開ハイビスカス人生》地元紙からの祝福

間宮敏昭氏は、鯉淵三四期卒業生。美濃加茂市で野菜のハウス園芸を営む父親の後を継いで農業に従事、直ちに大型ガラス温室によるハイビスカスとポインセチアの生産に取り組み、平成七年ハイビスカス専門に切り換えた。同時に、学園同期生である妻朋子さんもパンジーの生産を開始、名実共にハイビスパンジー満開のおしどり花家族である。今後の活躍をご期待申し上げます。

新曲紹介 《出逢い花》

キングレコードから発売

東京都支部 七期生 山下 耕一氏

作詩《鯉淵トンコ節(替歌)》原作者

出逢った時から この人だよと
 信じて惚れた 道一筋に
 負けるものかと 奥歯をかんて
 燃やす情熱に 命をかけて
 明日に咲かせよう 出逢い花

・・・は、今回発売の『出逢い花』の一節。作詩者本人が昭和二十五年春、鯉淵での出逢いから卒業後数年助手として過ごした学園時代をイメージした作品であり、辛苦の内面に秘める鯉淵魂(精神)の未来にかけた思いを、重篤の死線を乗り越えて今日まで生き抜いた氏の意気込みと情熱に託した人生応援歌である。
 是非入手、愛好してカラオケ大賞受賞を目指し、乞応援。

◆作曲 松本重信 ミュージック音楽企画代表 作曲家
 ◆歌手 本多光政 サラリーマン演歌歌手 新潟県佐渡出身

◆製造 キングレコード株式会社

レコード A面 出逢い花 B面 長良川旅情
 (唄・カラオケ入り)

テープ一本 一〇二〇円
 CD一枚 一一二〇円

◆連絡先 山下耕一 ☎〇三三三九三三〇三二九
 〒一七七一〇四五

東京都練馬区石神井台六一一九一六



常任委員・支部長異動

常任委員 白浜 唯司^⑤ 平成十一年三月三十一日 離任(学園退職)
 長野県支部長 落合 壽美夫^⑦ 平成十一年一月二十三日 選任 長野県支部総会
 長崎県支部長 糸山 興一郎^⑧ 〃 四月二十三日 受理 支部長通告

哀悼

名譽教授	近 秀 次先生(享年八十一歳)	逝去
北海道支部	桑野 茂 ^⑩	平成十一年十一月二十二日
〃	竹藪 昌弘 ^④	平成十一年二月十四日
〃	海野 孝喜 ^⑤	平成十年七月八日
岩手県支部	菅原 昭一 ^⑪	平成十年十二月二十五日
〃	千葉 欣一 ^④	平成十一年五月二十四日
宮城県支部	桜井 作太郎 ^⑤	平成十一年一月 日 受理
東京都支部	有働 伸雄 ^⑨	平成十一年四月二十四日
〃	青木 久良子 ^⑩	平成十一年四月二十七日 逝去(等間市にて)
滋賀県支部	村林 伝睦 ^⑤	平成十一年一月二十九日 受理
宮崎県支部	羽深 一忠 ^①	平成十一年三月 日 〃



「万年青年よ、恋をせよ!!」

愛知県七期生 奥田 勝巳

昭和二十七年三月学園を卒業して、愛知県に就職し三十九年間農業改良普及事業(主管課、農業大学校、農業改良普及所)一筋で勤務しましたが、当初の食糧増産から選択的拡大と前半は攻めの仕事が出来当時多かつた四日クラブ員とのつながりは今になっても続いております。後半は産業構造の変化に伴ない守りの農業を強いられながら少数精鋭の農業者と頑張ったつもりです。

現在の日本経済、農業は、世界経済の大きなうねりの中に巻き込まれ大変な時代に入っておりますが、その中で頑張っておられる同窓諸兄にエールを送りたいと思います。

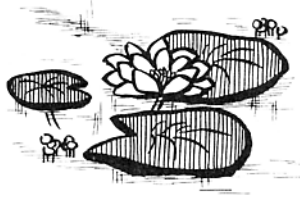
酒好きだった父親の血を受けついで、花好き、雪好き、友好しと毎晩少し入らないと寂しい方で、ビール、酒、焼酎、ウイスキー、ブランドイを楽しんでいるアルコール中毒候補生ですが、今回ご紹介する「アル中」とは一日でも歩くのを止めると、体がもやもやする症状をおこすことなのです。想いおこしてみますと、子供の頃兄につられて熱田から東別院や名古屋城まで歩きましたし、高校時代ほうら下駄で市内の古木屋めぐりや御在所岳、猿投山等の山歩きをしましたし、勤める様になっても土曜日の午後県庁から自宅まで(約十キロ)をコースを変え

て歩いた事もあり歩くことに対する抵抗はありませんでした。

十三年前友人にすすめられ「愛知県歩け歩け協会」に参加することになり健康のために始めた。「歩け運動」にすっかりのめり込み、今では全国各地で開催される歩け大会にも参加する本物のウォークマン(アル中からアル狂)になってしまいました。月一〜二回主に東海自然歩道を中心に十五キロ〜二十キロ歩く例会や支部の昭和歩こう会、知多新四国札所めぐりなど土曜、日曜日が待ちどおしいこの頃です。平成二年三月県退職後勤めた愛知県園芸種苗センターや今勤めている愛知県競馬組合への出勤には極力歩くことに心がけ約七キロ(一時間三十分)歩いています。

鯉淵学園入学当初藤岡教授(智恵子抄の高村光太郎の実弟で面影が瓜二つの人)が「学生諸君、若者よ恋をせよ!!」と微ををとばされ「恋することはどんなことでも表面だけでなく、裏面も含めた全体を知りつくすことであり、とことん好きになる事でそれがいつまでも続くこと、続けられることだ!!」と熱の入った講義が想い出されます。

食べることと、読書とたまの旅行が趣味だった私にとって、健康にも良く自然や名所旧跡、歴史とふれあう「歩け運動」



「何も無いことが幸せ」
 がしみこんでいる今の時代に、地球一周を目標に一日何万歩を歩き続けている先輩ウォークマンに敬意を表するとともに、いくらかでも追いつける様頑張っている私です。
 最後に学園同窓会の皆様のご健勝を祈り「万年青年よ恋をせよ!!」と檄をとばして筆を置きます。
 合掌

【別表】

平成10・11年度会費納入者数集計表

鯉淵学園同窓会

平成11年4月30日現在

支部名	会員数	納入者数		終身既 納入者	合 計	納入 率%	支部名	会員数	納入者数		終身既 納入者	合 計	納入 率%
		年度	終身						年度	終身			
北海道	248	49	5	33	87	35.1	京 都	94	26	1	23	50	53.2
青 森	59	11	1	9	21	35.6	大 阪	55	13	-	11	24	43.6
岩 手	176	35	1	36	72	40.9	兵 庫	126	54	3	11	68	54.0
宮 城	82	18	1	19	38	46.3	奈 良	14	2	-	7	9	64.3
秋 田	95	10	2	25	37	38.9	和歌山	36	3	-	6	9	25.0
山 形	200	23	-	20	43	21.5	小 計	422	109	6	75	190	45.0
福 島	233	38	2	22	62	26.6	鳥 取	63	4	1	9	14	22.2
小 計	1,093	184	12	164	360	32.9	島 根	160	12	-	19	31	19.4
茨 城	828	110	7	168	285	34.4	岡 山	71	11	-	12	23	32.4
栃 木	208	23	1	47	71	34.1	岡 広 島	102	18	-	19	37	36.3
群 馬	118	18	1	22	41	34.7	山 口	79	15	-	28	43	54.4
埼 玉	169	29	1	36	66	39.1	小 計	475	60	1	87	148	31.2
千 葉	182	23	3	43	69	37.9	德 島	25	3	-	5	8	32.0
東 京	116	17	-	29	46	39.7	香 川	29	5	-	8	13	44.8
神奈川	99	15	-	27	42	42.4	媛 知	48	4	-	10	14	29.2
小 計	1,720	235	13	372	620	36.0	高 知	39	3	-	6	9	23.1
新 潟	272	44	-	57	101	37.1	小 計	141	15	-	29	44	31.2
富 山	97	15	-	16	31	32.0	福 岡	45	7	-	6	13	28.9
石 川	55	9	-	16	25	45.5	佐 賀	69	7	-	12	19	27.5
福 井	171	23	3	20	46	26.9	長 崎	48	9	-	7	16	33.3
小 計	595	91	3	109	203	34.1	熊 本	83	15	1	19	35	42.2
山 梨	32	3	1	7	11	34.4	大 分	41	6	1	6	13	31.7
長 野	284	44	3	54	101	35.6	宮 崎	118	15	2	19	36	30.5
岐 阜	51	14	-	13	27	52.9	鹿 児 島	111	14	1	24	39	35.1
静 岡	98	9	-	18	27	27.6	沖 縄	142	16	1	18	35	24.6
愛 知	95	12	1	24	37	38.9	小 計	657	89	6	111	206	31.4
小 計	560	82	5	116	203	36.3	海 外	1	-	1	1	2	
三 重	42	3	-	10	13	31.0	合 計	5,664	865	47	1,064	1976	34.9
滋 賀	55	8	2	7	17	30.9							

同 卒 業 期 別 内 訳

[会員数は、平成10年5月31日現在の所在判明者数。
終身既納者は平成9年9月以前の納入者。両表共通。]

平成11年4月30日現在

卒 期	会員数	納 入 者 数		終身既 納入者	合 計	納入 率%	卒 期	会員数	納 入 者 数		終身既 納入者	合 計	納入 率%
		年度	終身						年度	終身			
1	63	13	-	24	37	58.7	31	89	17	-	11	28	31.5
2	104	17	3	51	71	68.3	32	109	17	-	8	25	22.9
3	112	19	-	48	67	59.8	33	125	15	-	11	26	20.8
4	98	26	-	54	80	81.6	34	116	10	1	9	20	17.2
5	67	17	1	38	56	83.6	35	114	13	-	7	20	17.5
6	32	2	1	21	24	75.0	36	117	14	-	6	20	17.1
7	73	16	2	50	68	93.2	37	91	6	-	4	10	11.0
8	81	19	-	35	54	66.7	38	82	9	1	2	12	14.6
9	112	18	2	49	69	61.6	39	79	6	-	1	7	8.9
10	105	18	2	33	53	50.5	40	66	3	-	3	6	9.1
小計	847	165	11	403	579	68.4	小計	988	110	2	62	174	17.6
11	77	11	3	35	49	63.6	41	67	4	-	2	6	9.0
12	58	8	-	23	31	53.4	42	54	5	-	-	5	9.3
13	88	15	2	28	45	51.1	43	96	13	-	8	21	22.1
14	89	12	1	27	40	44.9	44	93	8	-	6	14	15.1
15	87	14	2	31	47	54.0	45	99	9	-	3	12	12.1
16	70	13	4	18	35	50.0	46	73	9	-	3	12	16.4
17	65	15	-	16	31	47.7	47	62	6	1	2	9	14.5
18	54	11	1	18	30	55.6	48	71	5	-	2	7	9.9
19	92	17	-	30	47	51.1	49	81	18	-	3	21	25.9
20	86	15	2	22	39	45.3	50	96	24	1	-	25	26.0
小計	766	131	15	248	394	51.4	51	127	24	1	-	25	19.7
21	86	10	2	21	33	38.4	小計	918	125	3	29	157	17.1
22	127	15	-	24	39	30.7	(1)	178	24	-	17	41	23.0
23	155	20	3	47	70	45.2	(2)	220	33	-	12	45	20.5
24	145	28	4	33	65	44.8	(3)	267	37	-	18	55	20.6
25	159	31	1	33	65	40.9	(4)	190	24	1	20	45	23.7
26	134	29	2	24	55	41.0	(5)	113	21	1	4	26	23.0
27	108	19	2	21	42	38.9	小計	968	139	2	71	212	21.9
28	85	21	-	13	34	38.8	賛助	12	3	-	-	3	25.0
29	80	5	-	18	23	40.0	合計	5,664	865	47	1,064	1,976	34.9
30	86	14	-	17	31	36.0	小計	1,165	192	14	251	457	39.2

- ④⑧ 藤本 実
 ③ 葉師寺 公威
 【広島県】
 ②⑧ 梶谷 哲生
 ③⑤ 福田 剛上
 【山口県】
 ③ 内海 一潔
 【徳島県】
 ⑤ 元木 重利
 ②⑩ 谷川 清二
 【香川県】
 ⑭ 富家 優
 【愛媛県】
 ②④ 岡野 幹男
 【高知県】
 ⑬ 長尾 憲和
 【福岡県】
 ④② 香月 次郎
 【佐賀県】
 ④ 井手 定治
 ②⑧ 松尾 雅宏
 ③ 田久保 美彦
 【長崎県】
 ⑬ 山口 武
 ③⑩ 村田 幸代
 ⑤ 吉田 栄寿
 【熊本県】
 ②⑤ 本田 千恵子
 ③③ 本田 和稔
 ③⑤ 坂野 裕文
 【大分県】
 ②⑤ 後藤 秀一
- ⑦ 宮崎 幸
 ②⑥ 中山 千昭
 ②⑧ 瀬尾 孝子
 ③③ 日高 安洋
 【鹿児島県】
 ②⑥ 有村 俊美
 ⑤⑩ 中釜 勝之
 【沖縄県】
 ②④ 喜久山 守良
 ③⑦ 宮良 寿
 ③⑨ 城間 みゆき
- ⑦ 宮崎 幸
 ②⑦ 平山 長蔵
 ⑦ 本山 幸
- ② 滋賀 末次
 ② 山本 好文
 ⑦ 本山 幸
 【沖縄県】
 ③⑧ 宮平 浩
- 以下「名簿登録漏れ者」
 お詫びと登載確認
 平成十一年四月二十四
 日役員会承認
- ② 海外 三浦 猛
 ⑥ 川崎 進
 【大分県】
- ◎終身会費 一三名
- ◎八・九年度会費 二名



加藤成一さんの手紙（前号の続き）

2) 野菜圃場：1000平方mの畑が有ります。ここに、カウンターパートが野菜の栽培試験をしています。研修に来た農家に見せる為、また、自分たちの新技術学習の為です。圃場試験の相談にのります。実物に有る物の説明は、スペイン語でも英語でも簡単です。事務室と圃場は10分程ですのでよく通います。収穫後は試食会を持ちます。カウンターパートの誕生会などはこの圃場で焼肉パーティー（アサードと言います）をします。

3) 農家圃場：職場から50～150kmの範囲に、5か所の新技術普及の為の展示圃を農家の畑に設置してあります。この畑を中心に、農家グループに集まってもらい、新技術の講習会を持ったり、実技指導を行います。平均して週に1～2日は農家圃場に行きます。行くときは、もちろん、ジープで、作業着、長靴です。雨が降れば、ジープでも路がぬかるんで農家まで入れません。歩くのみです。悪路の運転はカウンターパートがします。道中の左右は一面牧草地で、牛だけがいます。

農家での実技指導は、カウンターパートがガラニー語でします。私は、彼らの指導の仕方を見ています。そして、後で指導についてコメントをします。農家の意見も聞かなくてははいけませんので、いろいろ質問しますが、これが大変です。私英語、カウンターパートがガラニー語、農家ガラニー語、カウンターパートがスペイン語、そして、私辞典と成ります。時間がかかりますし、理解出来ずイライラします。時には、通訳も連れて行きますが、彼もガラニー語はわかりませんので、同じことです。

時には農家で、昼食を御馳走になります。日本からのゲストですので御馳走です。牛の肉か鶏の肉の焼いたもの（アサードと言います）、キャサバ芋の蒸かしたもの、それに生野菜のトマト、です。デザートはヨーグルトです。畜産国ですので肉は安いですが、農家にとっては貴重です。美味しく頂きます。問題は飲み物です。ジュースはいいとしても、お茶が出てきます。テレレ（冷たいお茶）、マテ（熱いお茶）と言うお茶が牛のツノのコップに注がれ、これを廻し飲みになります。下痢予防のため遠慮しますが、飲まない仲間外れになります。彼らは飲んで仲間になってくれることを期待しています。ここが辛いところです。

次号に続く